

令和4年度 第2回学校運営協議会議事録概要

日時 令和4年12月5日 15:00~17:00

場所 大阪府立堺工科高校 図書館

1. 開会のあいさつ（校長）

- ・実業高校の在り方についての審議会答申報告
- ・設備更新、教員研修などで新しい力をつけるサポート体制の充実

2. 報告

(1) 学校経営計画の進捗状況について（首席）

ア. 人間力の育成

- ・学校教育自己診断アンケート（以下、「アンケート」という）において生徒、教員共に基礎学力が向上してきているという回答が多い。基礎学力診断テストにおいても数値があがっている。
- ・遅刻指導件数のこれ以上の目標達成は厳しい。半数は年5回以内で収まっている。家庭の事情等で0にするのが難しい。また、特定の生徒の回数が多く指導に時間がかかることが多い（1人で昨年度70回以上している生徒もいる。指導により今年度0回）。今年度の懲戒件数は現在7件。いじめ事象は1件、早期発見で重大事象化を防止している。

イ. 工業教育の充実

- ・アンケートにおいて、企業等連携による授業の充実においては88%以上の肯定率があり、昨年度より上昇し目標を達成している。
- ・資格取得については、環境化学システム系の技能検定や電気系の電気工事士などで順調に結果をだしている。ものづくりコンテスト電気工事部門では近畿大会準優勝。
- ・工業教育の魅力発信として、本校 Web ページに加えて保護者にメールで配信するなどして広報活動を推進しアンケートの肯定率も高い。8月の体験入学でも97%の肯定的な意見があり、12月にはイオンモール堺鉄砲町店でもイベントがあるので、ものづくりの魅力を伝えていきたい。

ウ. 教員の資質向上・地域との連携

- ・今年度も伝統工芸士（堺打ち刃物）や溶接協会との連携を継続して行っている。環境化学システム系では、関西環境管理技術センターの方にきていただき実習を行った。電気系では（株）きんでんとの連携を行っている。また、さかいSDGs推進プラットフォームに加入し各企業との連携を計画している。（イチゴの水耕栽培、制服リユース事業、SDGs講演会、自転車の端材でアプリサイクル事業等）
- ・ソーラーカー部・エコデザイン部で泉北クリーンフェスティバルに参加。エコデザイン部は毎日放送でもSDGsの取り組みで放送された。
- ・教員の資質向上として、初任者研修をはじめ、各系の専門的な研修から全体の人権研修、教育相談研修など充実して行っている。
- ・ICT活用として、出席停止生徒へのChromeBookを用いたオンライン授業をすぐに実施できる体制がある。また、多くの授業では電子黒板やプロジェクターの活用を行い、わかりやすい授業に努めている。

(2) 再編整備に伴い PBL を取り入れる授業について (首席)

- ・令和5年度より PBL (課題解決型学習) を取り入れた探究の時間を実施。11 月末までに指導略案をプロジェクトチームで完成し、今後授業の持ち方や評価方法の詳細を議論していく。教場については Wifi・プロジェクターなどの環境整備が完了し必要物品も揃ってきている。教員に向けての研修を 10 月、12 月と実施。

【委員】 班活動は何人くらいの予定か。

【学校】 実習によって異なるが 4, 5 名程度を想定している。

【委員】 7, 8 人だとさぼる生徒がでてくるので、4, 5 人がベストだと私も考える。PBL で教員が難しいのは生徒が間違っても、こちらから修正せず失敗して学ばせることが大事。

(3) 学校教育自己診断、授業アンケート、令和5年度入学希望者について (教頭)

- ・これまでアンケートは紙で集計をしていたが、今年度より Google フォームを用いて行い、回収率は低下した。回答の整理には便利だが、誰が未提出なのか確認ができない。
- ・保護者・生徒の「入学してよかった」、「保護者の行事参加」が大幅に増えている。「いじめ対応」の数値が減少しているが、対象になっていないと「わからない」と回答されることが多い。
- ・アンケートの教員記述項目において ICT 端末や教員間の関係など、さらなる改善が必要である。ストレスチェックでは 1 割の改善が見られた。
- ・令和5年度入学希望生徒が (現在調査で) 139 人と今までよりかなり少ない。

【委員】 中学生の人数が減っているのもあるが、一定のニーズはあるので募集人員を減らしてでも存続して欲しい。

- ・入学者が 3 年間で卒業できた割合は平成 29 年度は 72%、昨年度は 81%。年々改善している。

【委員】 約 20%は退学しているのか。

【学校】 ミスマッチ等もあるため次の学習する場については手厚く指導している。通信制や定時制に転学している生徒が多い。退学している生徒は減っている。

(4) 進路状況について (進路指導主事)

- ・今年度は就職 73%・進学 25%。コロナ以前より求人者数・求人企業数は増えている。
- ・1 次合格者数の合格率は各系で上昇している。
- ・今後は 2 年生に向けてのガイダンスの実施や、ハローワークとの連携を予定している。

3. その他

- ・クラブ活動の成績について

4. 協議 (会長・各委員)

ア. 教員の業務時間、働き方改革にどのように取り組めばいいか

- ・時間外在校等時間※における部門別月間平均時間について、昨年度のデータのみではなく今年度のデータとも比較したほうが良い。また、平均だけではなく分布のデータも見てはいいかがか。

※時間外在校等時間とは、出勤打刻時刻と退勤打刻時刻の間を在校等時間とし、在校等時間

から勤務時間及び休憩時間を除いた時間

- ・担任の先生の時間外在校等時間が多いのであれば、副担任と連携するなど業務分担を考えて業務量を減らしてはどうか。アンケートの教員記述項目にヒントがあるのではないかと検討してほしい。
- ・時間外在校等時間が月平均約 15 時間（平均月当たり勤務日数 20 日）であれば、それは多いのか。
- ・保護者として部活動をやらせたいが教員の負担が増えるのであれば、部活動の指導について外部指導員をどんどん活用してはどうか。
- ・中学校では、今年度から大会や試合をしない部活動を作った。すべての部活動の中で今年度の入部者数が一番多かった。今の子どもたちは勝利至上主義の「勝つ」という考えより生涯スポーツとして「楽しむ」という気持ちが強いことを理解すべきである。大人の意識改革が必要ではないか。
- ・中学校では生徒数が減り教員が減っているため、一人当たりの業務が増えている。業務の再割り当てを行うこともあるが、どの部門においても引き取り手のない業務が残る。結局、時間外在校等時間の短い人が長い人を助ける環境を作ることが大事である。

イ. 堺工科高校のイメージアップについて

- ・メディアに取り上げられたことは多いに活用し PR していく。
- ・小学校・中学校でもものづくりについて知る機会は少ないので、出前授業などからものづくりが身近になるようにしてあげて欲しい。保護者もものづくりや工科高校の魅力について知らないことが多い。
- ・広報活動を待っているのではなく、こちらから赴くことをしていくべき。
- ・中学教員等の外部の方に来てもらって学校をよく見てもらい、口コミで広めてもらう。
- ・学校側からもっとクラブ活動の PR があればいいと思う。

5. 事務連絡（教頭）

- ・次回の開催日程について、1 月 31 日の課題研究発表会日が候補日。

6. 閉会のあいさつ（校長）